



# 石神井中だより

練馬区立石神井中学校

校長 櫻井 弘

令和2年 8月28日

第5号

## 『自分で考える』

櫻井 弘

まだまだ暑い日が続くようですが、皆さん体調は大丈夫ですか。夏休みは自分で立てた計画どおりに過ごすことができましたか。休み中も猛暑に負けずに部活動に取り組む多くの生徒を見て、健康であり、頑張るものを持っていることは素晴らしいことで、そこに一生懸命に取り組む生徒の姿は格好いいなと感じました。

新型コロナウイルス感染症の影響はまだまだ続くようです。8月に入っても、感染者数のこと、ワクチン開発の状況など連日報道されていました。これからも、予定の変更などに柔軟に対応していかなければならないと思います。そこで、大切になるのは「自分で考える」ということだと思います。

ここで言う「自分で考える」とはどういうことかという、他人の意見に左右されることなく自分の頭で考え、自分の言葉を使って意見をはっきりと表現できるということです。誰かが言っていたからその通りにするとか、やらないと怒られるからなど、自分ではあまり深く考えずに日々を過ごしていませんか。今あることや取り組んでいることも、「なぜなんだ」「どうしてこういう取り組みが必要なのか」「本当にこれでいいのか」など疑問をもち、考え直してみることが必要だと思います。別の言葉では「探求心」「問いを立てる力」「常識を根底から疑う力」ということです。そして、考え直した結果に基づき、自分が納得して行うことにより、取り組みが意義をもち、効率も効果も上がると思います。

では、なぜ考える力が必要なのでしょう。現在も感じるのですが、これからの社会では技術の進歩が速いことや状況の変化が激しいことなど、将来何が起こるかわからない状況にあるからです。そのような状況ですから、今まで勉強した知識がそのまま生かせるかということ、そうではないことも多いと思います。将来起こることのすべてが、現状の延長線上にあるなら自分の頭で考えなくても対処していくことができるかもしれませんが、それでは現状維持がせいぜいで、対処できない場面に遭遇したらお手上げです。新型コロナウイルス感染症への対応を見ても分かるように、新しいルールや常識を作り出さなければならぬ時に「考える力」が必要になります。どう変化するかわからないときには、ゼロから考え直さなくてはならないかもしれません。そのため皆さんには、「考える力」「自ら学ぶ力」をぜひ身に付けてもらいたいと思っています。

学校の授業でも、皆さんの考えや意見を発表する授業が多くなっていると思います。これは、皆さんが社会に出た時に、どのような社会になっても活躍できるような「力」を身に付けていくひとつです。変化に対応するには、他人の意見に左右されず、自分の頭で、自分の言葉で、データを使ってロジカルに考えることです。

※ロジカル:論理的

※参考文献:「教えるということ」出口治明